





# 桃山南だより

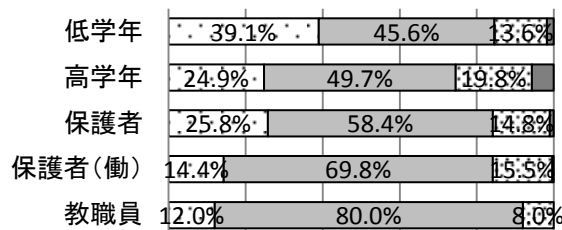
令和2年度前期学校評価版  
京都市立桃山南小学校  
校長 芝 原 理

清秋の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。  
平素は本校教育活動にご理解ご協力をくださり、厚くお礼申し上げます。  
さて、先日行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。  
「よくできている」「大体できている」とできると評価をしたものを昨年度の  
前期・後期分と比較して分析を行いました。  
お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。

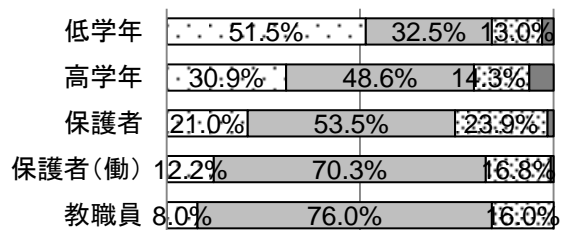
 よくできている  大体できている  
 あまりできていない  できていない

## 【確かな学力】

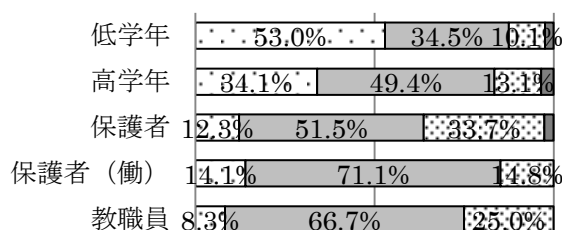
子どもは学習や学校行事などに  
自分から進んで取り組んでいる



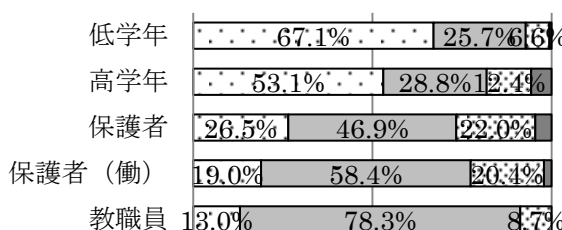
子どもはいろいろなことに目標をもって  
あきらめずに取り組んでいる



子どもは人の話を最後まで  
しっかり聞いている



子どもは家庭学習をしっかりしている

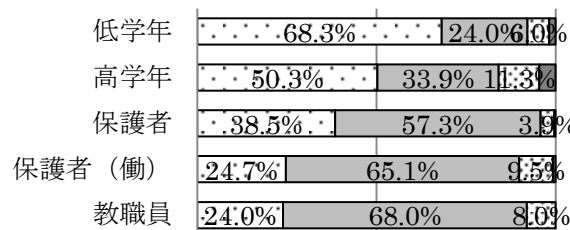


【確かな学力】に係る４項目の中で「学習や学校行事に自分から進んで…」という項目は低学年で０．３％減、高学年で６．３％減となり、コロナ禍の学校生活において学校行事等の機会が減ったことが児童の前向きな姿勢に影響を与えていることが分かります。特に委員会やたてわり活動等リーダーシップを発揮する機会が減った高学年の児童に対しては、児童の何事にも前向きに取り組もうとする姿勢を育てるため、ペア学年で実施した体育学習発表会や、再開が予定されている部活動等のたてわり活動を充実していくことで、今後の活躍の場を広げていきたいと考えています。

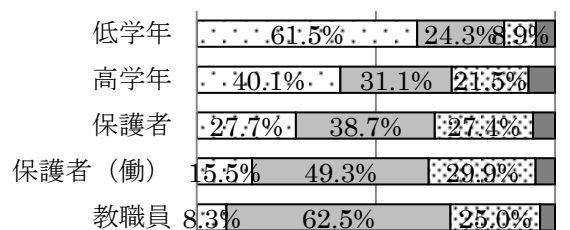
また、学力の向上にとって大変重要な「人の話を最後まで…」「家庭学習をしっかりしている」の２項目についてはできるととらえている児童が８割から９割程度を占めるものの、「よくできている」と答えている児童は５割強にとどまっている現状が続いています。この状況を変えるために本校ではロイロノートというタブレット学習を試験的に導入しました。児童が視覚的に問題をとらえたり、コロナ禍においても交流やグループ学習が続けられるようになっていきます。今後さらに児童の聞く姿勢や学習理解を深めるために授業の工夫に取り組みたいです。

## 【健やかな体】

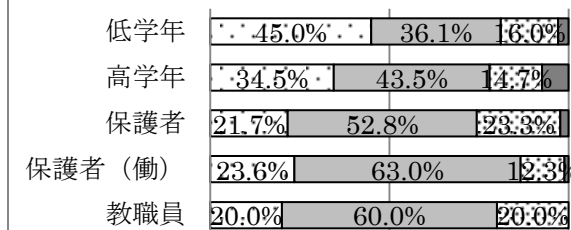
子どもはいつも元気で、  
明るい気持ちで過ごしている



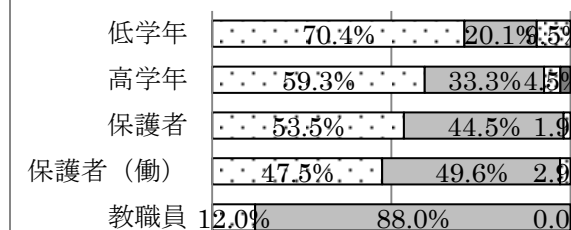
子どもはいろいろなスポーツや外遊びなどで  
進んで体を動かしている



子どもは「早寝、早起き、朝ごはん」や  
整理整頓、身の回りの清潔など、  
衛生面で規則正しい生活を送っている



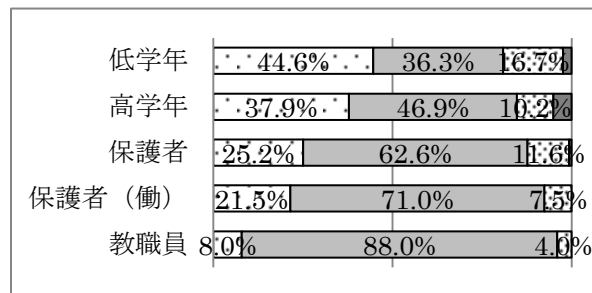
子どもは新型コロナウイルス感染予防のために、  
手洗いやマスク着用、密をさけるなどの  
生活を守っている



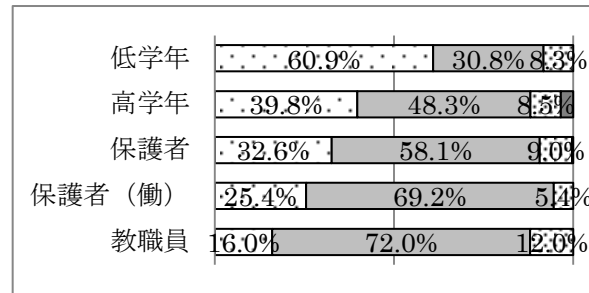
【健やかな体】について今年度は「新型コロナウイルス感染予防のための…」項目を増やしました。その結果、教職員や保護者のみなさまは、ほぼ１００％の割合で、子ども達がマスク等の対策を行っていると考えており、低学年では９０．５％、高学年では９２．６％の大変高い割合で、児童が感染予防を心がけた生活ができていることが分かりました。一方で「早寝、早起き、朝ごはん…」の規則正しい生活を問う項目では、低学年が８１．１％で昨年度に比べて６．６％できると答えた児童の割合が減りました。また、高学年は１％の微減で７８％という結果となりました。マスクなどの感染症対策はしっかりしている一方で、本来は体の抵抗力を保つために基本となる規則正しい生活の定着にまだまだ課題が残っていることが分かりました。子どもたちは、マスクの着用や、目で見えてわかる密を避ける方法などは意識できているようですが、自分たちの健康を守る最も大切な生活習慣には意識がやや向いていないようです。「いろいろなスポーツや外遊び…」の体を動かしているかを問うた項目でも昨年度の１０％超減となり、体を動かす機会が減っている今年度は、当たり前の毎日の生活習慣を見直すよいチャンスになるかもしれません。

## 【豊かな心】

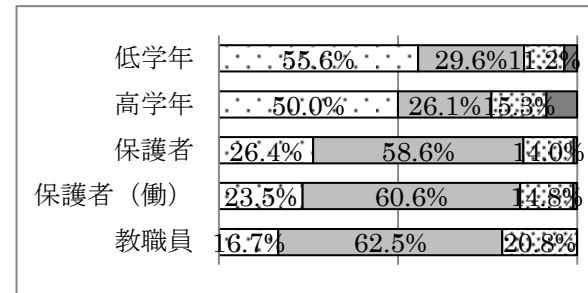
子どもは自分で良い、悪いを判断して、  
その考えで行動している



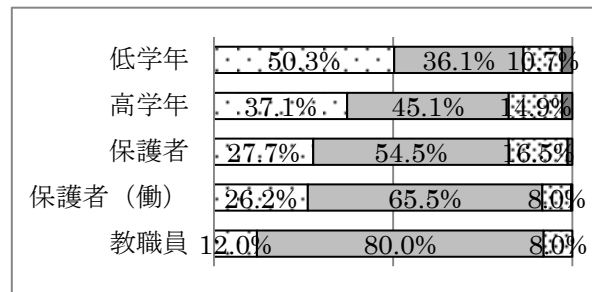
子どもはいろいろなきまりや  
ルールを守っている



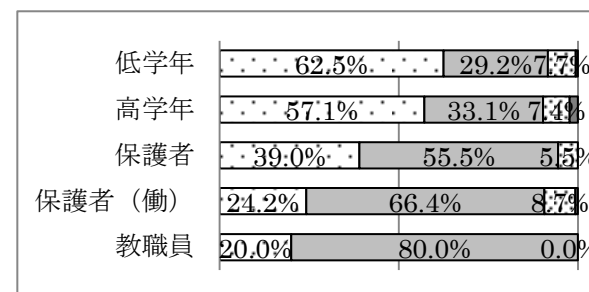
子どもは自分に良いところがあると思っている



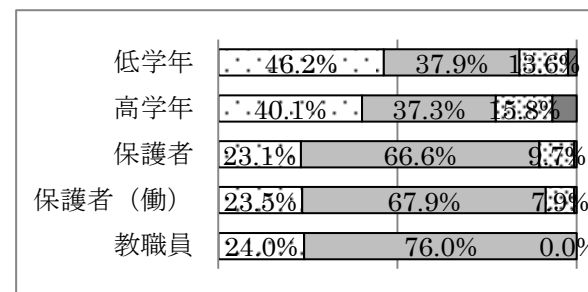
子どもは他の人の気持ちや立場を  
考えて行動している



子どもは友達を大切にし、  
誰とでも仲良くしている



子どもは自分の身の回りで  
いじめが起こらないように努力している



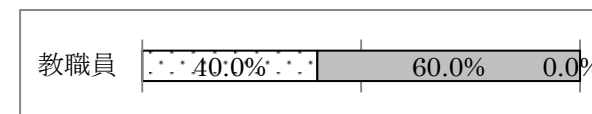
「いろいろなきまりやルールを守っている」の項目で、できると感じている児童は昨年度に比べ、低学年で3.4%増の91.7%。高学年では1.2%増の88.1%となりました。児童の規範意識の高まりがみられ、大変うれしい結果です。しかし、「自分で良い、悪いを判断して…」の項目は低学年で4.4%減の80.9%。高学年では1.3%増の84.8%となり、あまり大きな変化は見られません。先生や保護者に言われたルールは守ることができるものの、自ら考え行動するという点において児童のこれからの目指す姿がみられます。また、「友達を大切にし…」の項目や「他の人の気持ちや立場を考えて…」の項目では、昨年度より低・高学年ともに0.5%～3%ほどの微増で9割ほどの児童が、友達を大切に、仲良く出来ていることが分かりました。ところが「いじめが起こらないように努力している」という項目では、昨年度前期より高学年で82.5%、81.3%、77.4%とアンケートを取るごとに数値が下がっている現状が続いています。保護者や教職員は数値が上がってきている傾向になっているのですが、子どもと大人で反比例の傾向がみられます。これはいじめにつながる児童の悩みや事象が、大人から見えないSNS上などで進んでしまっていることと無関係ではないと思われます。今まで以上に児童の変化に目を配り細かな変化を見逃さないように学校と家庭で連携を深めてまいりましょう。さらに「自分に良いところがある…」の項目も年々数値が下がっているため、自己肯定感を高められる取組や声かけを实践して、これまで以上に自他を大切にできる児童を育む環境を整えていきたいと思います。

## 【自由記述より】

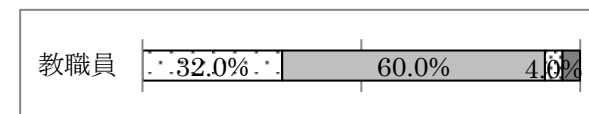
- 特定の子だけ仲良くする傾向があるので色々な違いがある子とも仲良く出来ることを願っています。
- タブレットやゲームのルールを決めていますがい配です。良識やモラルについても指導が必要になってくると思います。
- 子どもにはコロナの中、手洗いうがい等、最低限のマナーは守ってもらいながらも、あまり委縮せず、のびのびとくらしていけるようにしたいです。
- 手洗いが学校でできているのか心配です。上靴も汚れがひどいので衛生面が心配です。
- 実験や実技などが制限される状態で、学力の向上ができないことが残念です。ペーパーだけの知識では学力向上はむずかしい。家庭も巻き込んでいいので体験できる方法を考えていただきたい。
- これまで行っていた取組や行事を体験させてあげてほしいと思っています。
- コロナの影響でストレスを抱えており、勉強に対するモチベーションも下がっているため、フォローや様子を見てあげないと思います。
- 猛暑の中、マスクの着用で熱中症が心配です。
- コロナいじめが心配です。  
→学校では、換気やアルコール消毒等の環境整備を継続しています。また手洗いやマスク着用等、アンケート結果にもあるように児童自身も感染症予防を十分に理解して新しい学校生活に慣れてきています。また、タブレット学習を始め、ICT環境も整ってきています。今後も季節が変わることで新たな対応も必要になるかと思いますが、引き続き安心できる学校生活を守るために努力いたします。

## 【教職員】

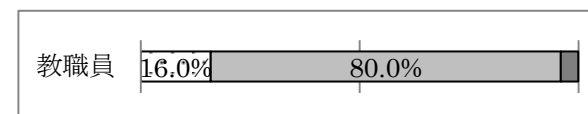
教職員が「学校いじめの防止対策基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている



児童の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している



働き方改革を意識して、業務改善に取り組んでいる



今年度はコロナ禍において新たな業務が増える中「働き方改革…」の項目で、できた割合が96%となりました。今後も教職員が児童と関わる時間を増やすことで、児童の訴えを聞き、いじめの防止に努め、児童と安心して過ごせる学校づくりをめざします。